

幼児の母



昭和十五年

一月

祝 皇紀二千六百丰

大切な我子の幼児期

倉橋 惣三

親の何よりの願ひは、我子のよき成長です。一日も早く成長させたいのが親の望みです。しかし、あすの成長はけふの充實がなくては出来ません。發達は順々です。よき今からのみ、よき次が得られよき後が待たれるのです。ですから、我子の發達を充分にさせるためには、その初めが何より大切です。

お子さん方は、その大切な初め、すなはち幼児期にゐられるのです。今の身體

が注意せられないで、將來の健康をどうして得られませう。今の心柄がよく導かれないうで、眞實の性格がどうして作られませう。ほんとうに、今の幼児期こそ、あなたのお子さんの一生のため一番大切な時です。

美しい花を咲かせよう、よき實をならせようとは、誰れでも希望する事です。しかも、根を大切にし、芽をよく育てる人だけに、その希望が成就します。

子どもの癖

くらはし

悪い癖は無いがよい。良い癖はあるがよい。良い癖はその癖の良いためにいゝばかりでなく、それを、きまつてするといふ處に教育的なうちがあります。そこで、そんなにあれもこれもといつては、無理にもなります。食事の前にはきつと手を洗ふなんていふことは、傳染病の豫防にもなるし、きまりの習慣の一つにもなる。その位、厳しく勵行してもいいでせう。殊に、幼稚園ではお辨當の前に必ず手を洗はせてゐます。一日に一回だけでは、良い習慣にもなり兼ねませう。幼稚園で日に一度洗へば澤山だなんていはないで下さい。折角の一度が、二度の「洗はない」で、洗ひ流されて仕舞ふでせう。——序に、子どもの良い癖は、子どもにはかりさせるのは、むづかしいことです。食前の手洗にしても、お母さまが先づ、母の良習慣とすることですな。